

令和元年度 学校自己評価のまとめ

回収総数16名（職員6名 こども環境科6名 介護環境科4名）

4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切

1 教育理念・目標

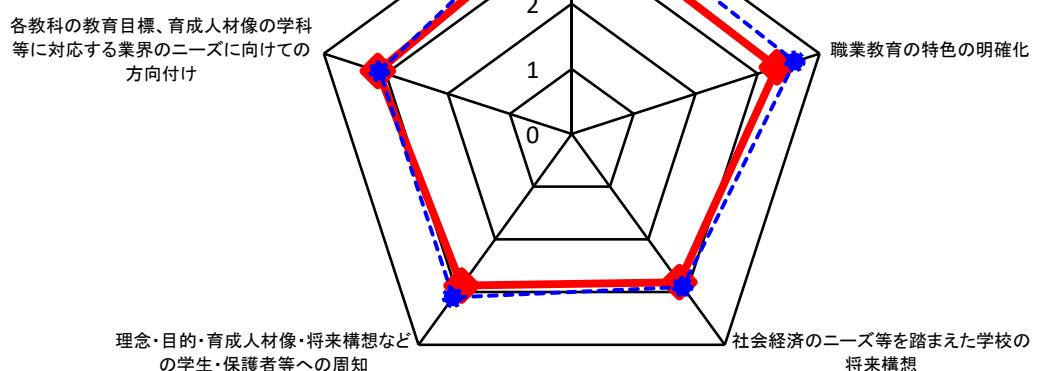
		4	3	2	1	平均	総平均
学校の理念・目標育成人材像(専門分野の特性の明確化)	職	3	3	0	0	3.5	3.4
	こ	2	4	0	0	3.3	
	介	2	2	0	0	3.5	
職業教育の特色の明確化	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	2	3	1	0	3.2	
	介	0	4	0	0	3.0	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	職	1	5	0	0	3.2	2.8
	こ	0	2	4	0	2.3	
	介	0	4	0	0	3.0	
理念・目的・育成人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	職	1	5	0	0	3.2	2.9
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	0	2	2	0	2.5	
各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向付け	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	0	5	1	0	2.8	
	介	1	2	1	0	3.0	

網掛けは前年度平均

- 総平均値は0.2ポイント下がっている。特に2つの項目で前年度を大きく下回った。
- 保護者や学生への周知を一層充実させていきたい。
- 将来構想についての共通認識が課題となっている。

・評価によって表出した課題と改善策

- ◎例年6月上旬に開催していた保護者懇談会の参加者が極めて少数であることから中止とし、今年度は入学式後の保護者説明会の内容を充実させたことにより、教育理念・目標の周知を一定程度図ることができた。学生に対しての学ぶ意義等の指導にも取り組んだが、オリエンテーションの充実等を通して一層の周知を図りたい。
- ◎進路設計が未成熟な学生も見られる。学生の目指す道を効率的に個々に提示できる方策を考える方法はないか。
- ◎教育理念や教育方針については折にふれSNSで紹介しているが、発展計画の内容をもっと外に向か発信していくことで、教育の理解に繋がっていく可能性がある。
- ◎新入生の保護者に保護者説明会で学校の理念等を伝えられるようになったのはよいが、将来構想に不透明さを感じる。
- ◎学校の理念は示されているが、現実の諸問題との乖離の中で形骸化している部分も感じられる。
- ◎保護者の方と直接お話しできる機会が少ないように思います。懇談会よりも個別で面談を行った方がきめ細やかな対応ができるのではないかでしょうか？
- ◎将来構想について、具体的に(教育目標・業界のニーズ)話し合う場を持ち、方向づけを職員が共有・確認していく必要があると考える。



2 学校運営

		4	3	2	1	平均	総平均
目的に沿った運営方針の策定	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	1	2	1	0	3.0	
運営方針に沿った事業計画の策定	職	3	2	1	0	3.3	2.9
	二	0	3	3	0	2.5	
	介	2	0	2	0	3.0	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	1	4	1	0	3.0	2.4
	二	0	0	5	1	1.8	
	介	0	2	2	0	2.5	
人事・給与の規定の整備	職	2	4	0	0	3.3	2.7
	二	0	1	5	0	2.2	
	介	1	0	3	0	2.5	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	二	0	2	4	0	2.3	
	介	1	1	2	0	2.8	
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	職	3	3	0	0	3.5	2.9
	二	0	3	3	0	2.5	
	介	1	1	2	0	2.8	
教育活動等における情報公開	職	3	2	1	0	3.3	3.2
	二	1	4	1	0	3.0	
	介	2	1	1	0	3.3	
情報システム化等による業務の効率化	職	1	4	1	0	3.0	2.5
	二	0	1	4	1	2.0	
	介	0	2	2	0	2.5	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.2ポイント下がっている。特に2つの項目で前年度を大きく下回った。

○規則・規定を含む書類・文書等の保管場所等について、整理していくことが必要である。

○学校運営の充実に生きてはたらくティール運営の推進。

・評価によって表出した課題と改善策

◎今年度から取り組みを始めたティール運営を、学校運営の充実にどのように活かしていくのか、来年度は職員の知恵を出し合い進めていくことが課題である。

◎本校の教育活動の情報活動は、より活発化せねばならない。

◎PCの技術に個人差が大きく、効率化を図りたいが、使用できる職員が限られてしまうなどの問題があるよううに思う。

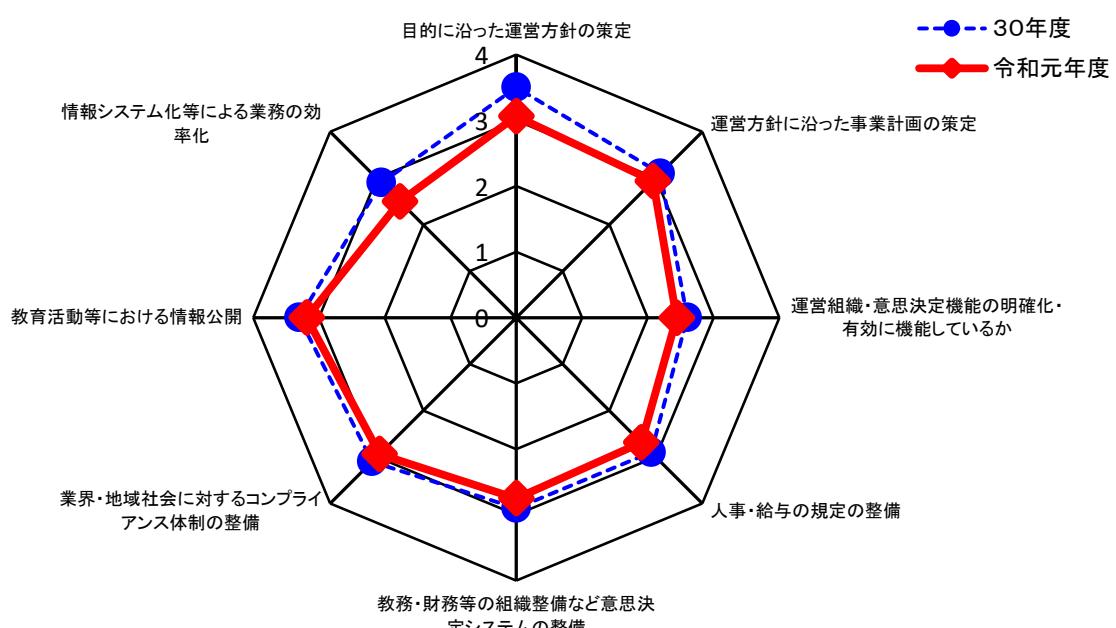
◎ティール運営を施行し始めた1年だったが、委員会組織で行っていた会合が開かれず、職員会議で要綱案を検討したものを見落としがあった。チームで担当を担うなど現実的な対応も必要ではないだろうか。

◎教員・学校長・理事長の組織的・有機的な関わり方を模索・改善する事が必要。

◎分担部分が少しわかりにくくなりました。

◎規程類は、ファイル等にまとめて職員がいつでも閲覧できる場所に設置することが必要と思う。情報システム化は進んでいるように思えるが、保管方法・場所などが明確化されておらず全職員に浸透していないところもあり、必ずしも効率化につながっているとはいいがたい。

◎情報システム化できるものは行い、業務を整理し、効率化を図る必要があると考える。



3 教育活動

(1)教育課程

	4	3	2	1	平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	職	4	2	0	0	3.3
	二	0	6	0	0	
	介	1	3	0	0	
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	職	3	3	0	0	3.1
	二	0	4	2	0	
	介	1	2	1	0	
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	2	4	0	0	3.2
	二	1	5	0	0	
	介	1	2	1	0	
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	3	3	0	0	3.2
	二	0	6	0	0	
	介	1	2	1	0	
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	4	2	0	0	3.4
	二	2	4	0	0	
	介	1	2	1	0	
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	3	3	0	0	3.3
	二	0	6	0	0	
	介	2	2	0	0	

網掛けは前年度平均

○4項目が前年度を若干下回ってはいるが、総平均値は同数値。

○教育課程における非常勤も含めた全体の共通理解をどう図るか。

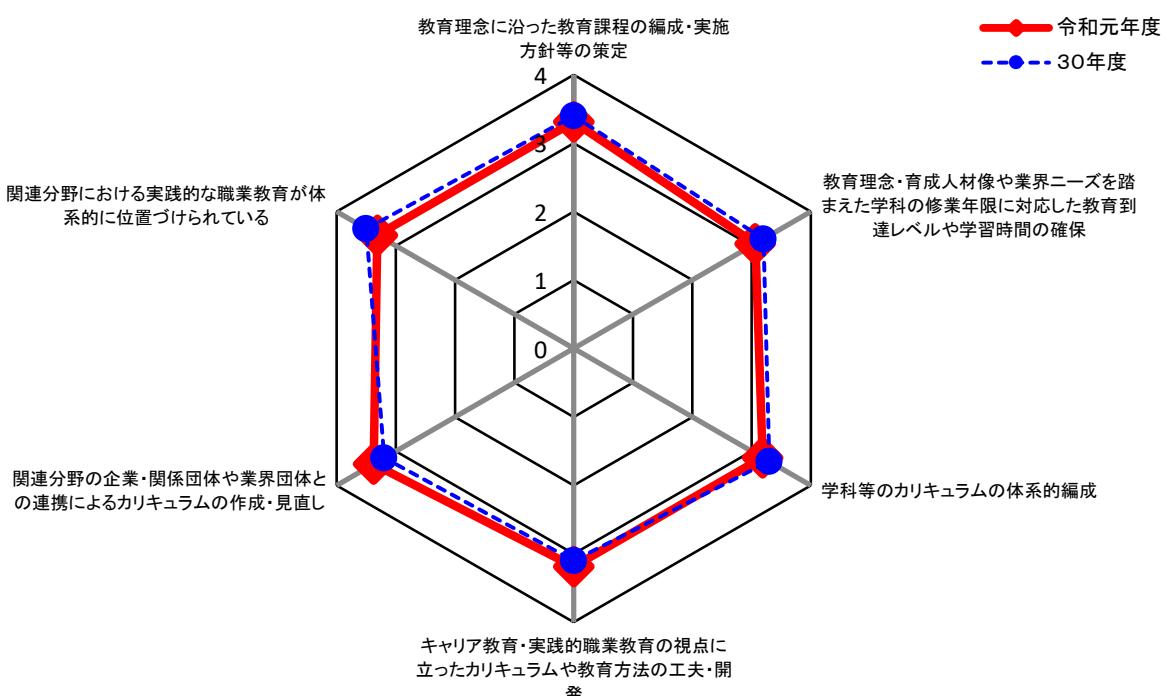
○新教育課程に対する共通理解と作業の推進を図る。

・評価によって表出した課題と改善策

◎企業等との連携を視野に入れたカリキュラム・シラバスは整備されており、学習時間も確保されている。シラバスの表記様式の統一を非常勤講師の協力を得ながら進めたい。

◎関連分野に対する実践的教育活動のよりPR化が必要。

◎集中講義だけではないのですか、授業時数の確保が大変でした。



(2)指導・評価

		4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	職	3	2	1	0	3.3	3.4
	二	3	3	0	0	3.5	
	介	2	1	1	0	3.3	
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	3	2	1	0	3.3	3.3
	二	2	4	0	0	3.3	
	介	2	1	1	0	3.3	
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	1	5	0	0	3.2	2.7
	二	0	2	4	0	2.3	
	介	0	2	2	0	2.5	
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	二	1	5	0	0	3.2	
	介	0	4	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント下がっている。特に1つの項目で前年度を大きく下回った。

○評価・単位認定、進級・卒業認定に係る諸事項を一層明確にするための共通理解(時間設定)。

○授業(指導)改善に結びつく授業評価のあり方。

・評価によって表出した課題と改善策

◎どの項目についても形としては示されているが、より丁寧な意味に(明確化)していきたい。専任講師全員の公開授業及び学生による授業評価が定着している。評価を指導に活かす取り組みを更に進めていきたい。また、可能であれば学生による授業評価を非常勤講師についても進めたい。

◎態勢はととのっている。

◎進級判定の基準が現状で良いのか疑問に思っています。

◎成績評価等の基準をより明確にしていくとともに、進級に関する規定を学則に明記していくはどうか。

◎授業評価について、自分の授業の改善に役立てたいと思っているので、評価項目の見直しも必要かと思います。



(3)教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	4	2	0	0	3.7	3.0
	二	0	2	4	0	2.3	
	介	1	2	1	0	3.0	
関連分野の業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	1	3	0	0	3.3	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	二	0	2	4	0	2.3	
	介	1	2	1	0	3.0	
職員の能力開発のための研修等の実施	職	1	4	1	0	3.0	2.7
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	0	1	3	0	2.3	

網掛けは前年度平均

- 総平均値は0.1ポイント下がっている。1つの項目で前年度を大きく下回ったことによる。
- 継続的な教員確保の取り組み。(フルタイムの常勤を含む)
- 外部講師による職員研修会の継続実施と、それに基づいた学科における個々の学生に対する理解研修。
- 専任教員個々の能力を伸ばす研修機会の確保。(経済的援助)

・評価によって表出した課題と改善策

◎全職員(常勤、希望する非常勤)を対象とした外部講師による「学生理解」のための研修を2年連続で行うことができ、多くを学ぶことができた。是非継続したい。書籍の発刊、研究紀要の作成など本校の取り組みを積極的な発信についても継続していきたい。

◎他校のノウハウを積極的に取り入れる。

◎研修の内容によっては、教員だけでなく、職員も積極的に参加する体制をとっていくとよい。

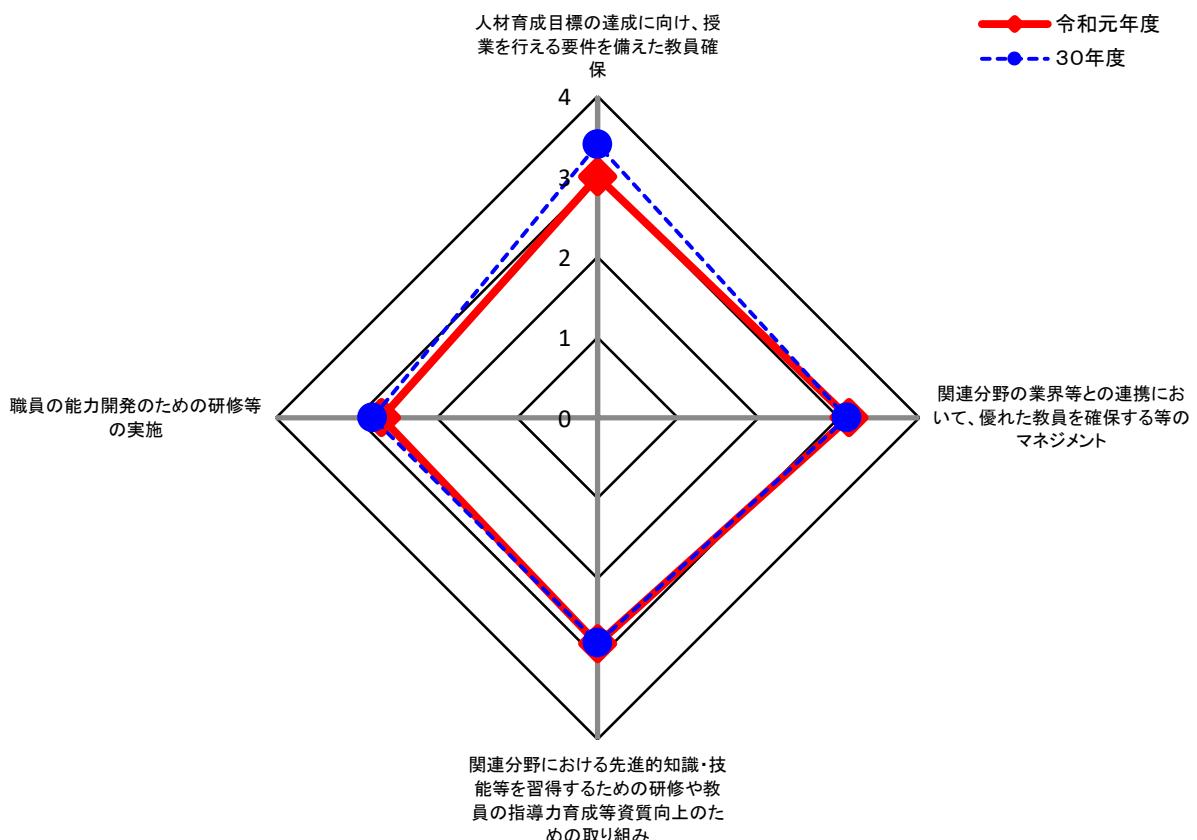
◎教員の確保が不十分である。釧路という地理的問題や他校との競合により、保育内容の指導法を担当できる教員を確保できていない。引き続き公募や紹介等により、教員の確保に努める。

◎授業を行える要件を備えた教員の配置という点ではクリアされているが、フルタイムの教員が少なく、学科(教職員)への負担増とやTA制度の維持等、困難なことがらも生じている。

◎常勤の教員も少なく大変でした。

◎専門分野の研修会に参加できる機会を増やしてほしいと思います。

◎学生指導、授業の工夫・改善に向けて、研修を取り入れ、教員、お互いに高めていく意識が必要と考える。



4 学修成果

	4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	5	1	0	0	3.8
	二	1	5	0	0	3.2
	介	2	2	0	0	3.5
資格習得率の向上	職	3	3	0	0	3.5
	二	0	6	0	0	3.0
	介	0	2	2	0	2.5
退学率の低減	職	2	3	1	0	3.2
	二	0	2	4	0	2.3
	介	0	2	2	0	2.5
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	職	1	5	0	0	3.2
	二	0	2	4	0	2.3
	介	1	2	1	0	3.0
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	職	1	5	0	0	3.2
	二	0	1	5	0	2.2
	介	0	3	1	0	2.8

網掛けは前年度平均

- 4つの項目が前年度を下回ったことにより、総平均値は0.2ポイント下がっている。
- 退学していく学生の増加に対して初期段階からのきめ細やかな対応を図る体制づくり。
- 学生の卒業後の状況把握。

・評価によって表出した課題と改善策

◎本校には、学習意欲、学習習慣、目的意識、自立・自律等多くの課題を持つ学生の割合が多いと思います。そのことが、退学や欠席など様々な問題が生じていることにつながっていると思われます。フルタイムの専任教員が少ないことによる大変さはありますが、学生へのきめ細かで丁寧な関わりを全教職員が共通理解に立ち進めなければならないと思います。

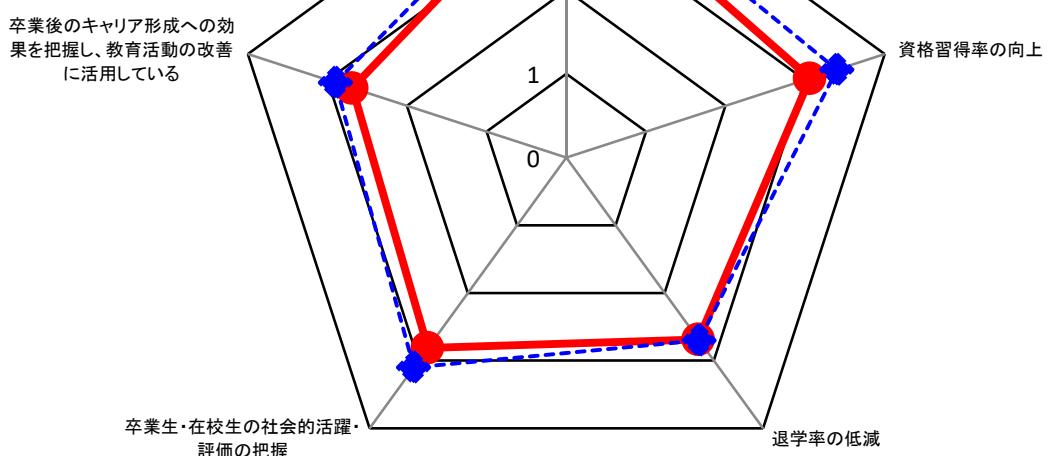
◎退学・休学に限らず、欠席過多に対応する教員の意識を統一する必要があると感じる。

◎教職員により温度差があると感じる。人間関係が希薄化してきている現代だからこそ、教育理念・教育方針に添ったサポート支援が必要。

◎卒業生についての把握が不十分である。同窓会の係を毎年度決めているが、専攻科で集まりがあった程度で機能していない。来年度創立50周年を迎えることもあり、同窓会を活用して卒業生によりシンポジウム等開催してはどうか。また、卒業後の動向についても調査しては。

◎退学を減らすための、親身な学生対応を実現するTA制度の維持が難しくなってきている。(フルタイムの教員が少ないとことから)

◎退学率の低減は、一人ひとりに応じた指導体制の確立をするべきだと思う。フルタイムが少ないため、日々継続して支援していくのには困難さを感じる。



5 学生支援

(1) 支援体制

		4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	1	2	1	0	3.0	
学生相談に関する体制の整備	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	二	1	2	3	0	2.7	
	介	1	1	1	1	2.5	
学生に対する経済的支援体制の整備	職	1	4	1	0	3.0	2.9
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	1	2	1	0	3.0	
学生の健康管理を担う組織体制	職	1	3	2	0	2.8	2.7
	二	0	2	4	0	2.3	
	介	1	2	1	0	3.0	
課外活動に対する支援体制の整備	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	1	3	0	0	3.3	
学生の生活環境への支援	職	1	4	1	0	3.0	2.7
	二	0	3	3	0	2.5	
	介	1	1	1	1	2.5	

網掛けは前年度平均

○5つの項目が前年度を下回り、総平均値は0.1ポイント下がっている。

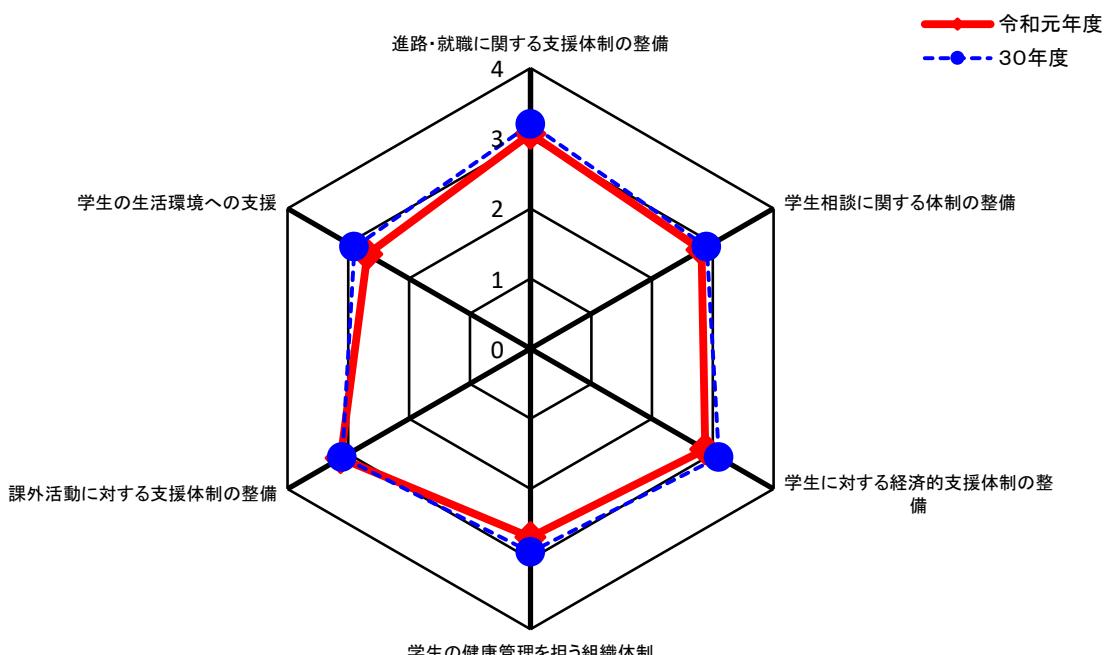
○多様なニーズ、悩みを持つ学生が気軽に学業や学校生活など多方面にわたる相談を気軽にできる温かな雰囲気作り。

○学生への声かけ、相談、支援への努力を惜しまない体制づくり。(小規模校であることを生かした取り組み)

・評価によって表出した課題と改善策

- ◎小規模校であることを生かし、一人一人の学生に応じた様々な視点からの支援を一層充実させていきたい。
- ◎個々の学生の生活環境に踏み入れられるか。
- ◎学生が相談する教員に偏りが見えるので、誰にでも相談できるのが理想ですが…。
- ◎地方から入学する学生増に向け、将来的な目標として学生寮が設置できれば健康管理及び経済支援に関する課題も含めた支援体制も整ってくるのでは。
- ◎学生支援が全体的に不十分である。個別面談や職業説明会により支援をしているが、ネットで検索した紹介業者の支援を受ける学生が一定程度いる。釧路市私立幼稚園連合等に奨学金制度創立を依頼するなど、学生に対する経済的な支援が整備できたらよい。教員体制が十分でないため、学生が相談しづらい状況もあるので、教員確保に努めたい。
- ◎学生相談については体制としてではなく、教師個々の努力・情熱によって成り立っているのが実態である。
- ◎学生の経済的な負担の軽減を図りたい。
- ◎校舎が全体的に老朽化が目立つ。外見的にもイメージダウンにつながるので、まずトイレがきれいでありたい。学生のゴミ処理についても再確認(指導)が必要。

◎退学率(4. 学修成果)の低減と合わせ、入学時より(場合によっては入学決定時より)支援体制を整えていく必要があると考える。学生支援体制について、方向性の確認、具体化の検討。



(2)連携体制

	4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	1	4	1	0	3.0
	二	0	4	2	0	2.7
	介	1	2	1	0	3.0
卒業生への支援体制	職	1	5	0	0	3.2
	二	0	1	5	0	2.2
	介	0	3	1	0	2.8
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	1	5	0	0	3.2
	二	1	2	3	0	2.7
	介	1	1	2	0	2.8
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	2	3	1	0	3.2
	二	2	4	0	0	3.3
	介	2	1	1	0	3.3

網掛けは前年度平均

○3つの項目が前年度を下回り、総平均値は0.1ポイント下がっている。

○高卒学生の保護者に対する年に一度の個別面談の実施など、保護者との連携を深めていく取り組み。(学科別保護者懇談会の開催についての検討)

○卒業生への声かけ。(年に一度の電話連絡等)

・評価によって表出した課題と改善策

◎特に課題を持つ学生については、早い段階から保護者への情報提供を行い、必要に応じて面談を持つなど、個別に連携をとる必要を感じています。

◎他の教育機関との連携、相互理解を進めるためには。

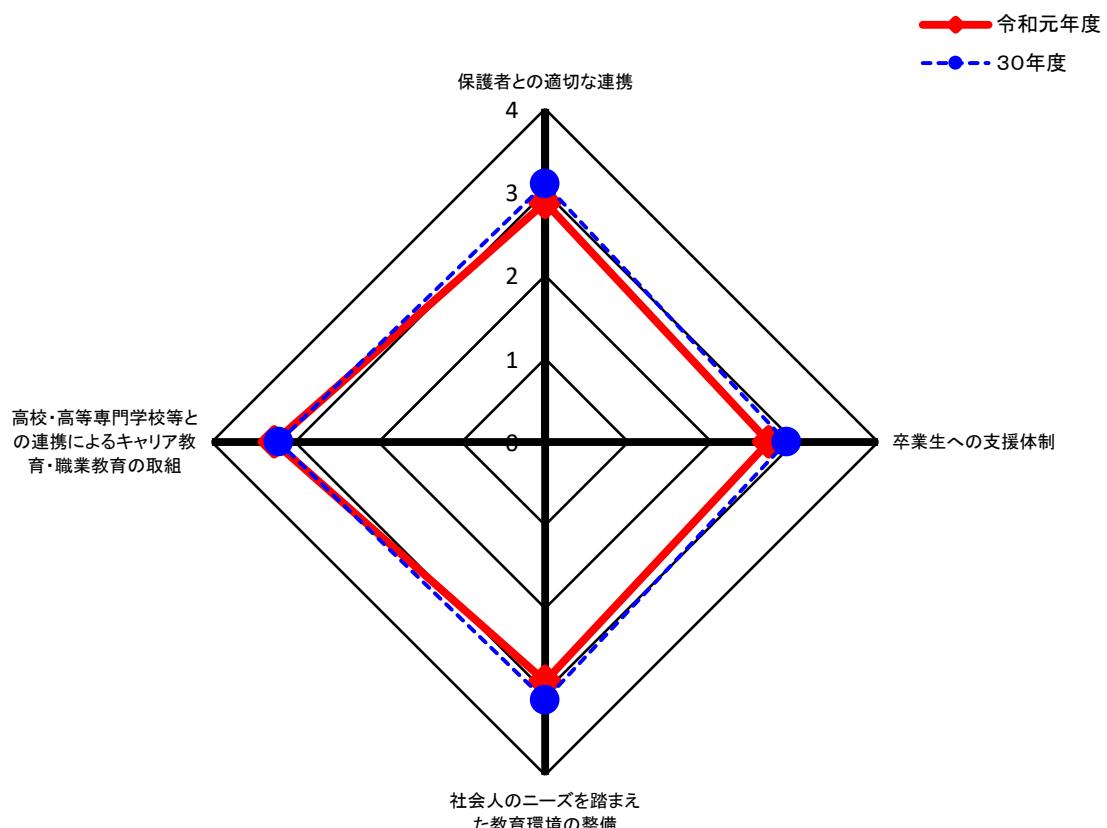
◎希望する保護者には個人面談できる場が必要であると考える。保護者はそのような場を学校からの働きかけで積極的に設けて欲しいと願っているのでは。

◎早退・遅刻が多いクラスがあるのは、クラス全体の雰囲気、気持ちを変えてしまうのではないかと感じます。授業中の様子もですが、早めの対応、学生の様子によって、保護者との連携も授業時間等に行き詰まる前に協力なり何か策を先に考えなくては退学者も増えたり、周りの学生のモチベーションにも良い影響があるのではないかと感じます。

◎各学科で保護者会を開催することとしたが、結果的に実現できなかった。学校祭にいらっしゃる保護者もみえるため、学校祭後に保護者会を設定するのも良いのでは。卒業生への支援は、相談があれば実施しているのが現状なので、先の項目とも関連するが、卒業後の追跡調査も必要。

◎増えている技専生の現状(こどもや要介護の親など)に合わせて、土曜や日曜の行事や集中講義を避けたり、こどもを預けられる環境などを整備する必要が出てきている。

◎様々な保護者のいる現状の中での、組織的連携のあり方。



6 教育環境

	4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている	職	0	4	2	0	2.7
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している	職	2	4	0	0	3.3
	二	0	3	3	0	2.5
	介	1	1	2	0	2.8
インターンシップ、海外研修等について体制の整備	職	0	2	3	1	2.2
	二	0	2	3	1	2.2
	介	0	1	3	0	2.3
防災に対する体制の整備	職	0	4	2	0	2.7
	二	0	3	2	1	2.3
	介	0	2	2	0	2.5

網掛けは前年度平均

○全項目で前年度を下回り、総平均値は0.3ポイント下がっている。(総平均値は2.5点で、最も低い値となっている)

○施設・設備の老朽化に伴う、短期、中長期的な計画的改修、改善の必要性。

○今年度末には放送設備が復旧されることから、災害時の避難誘導(避難訓練)についての再検討。

・評価によって表出した課題と改善策

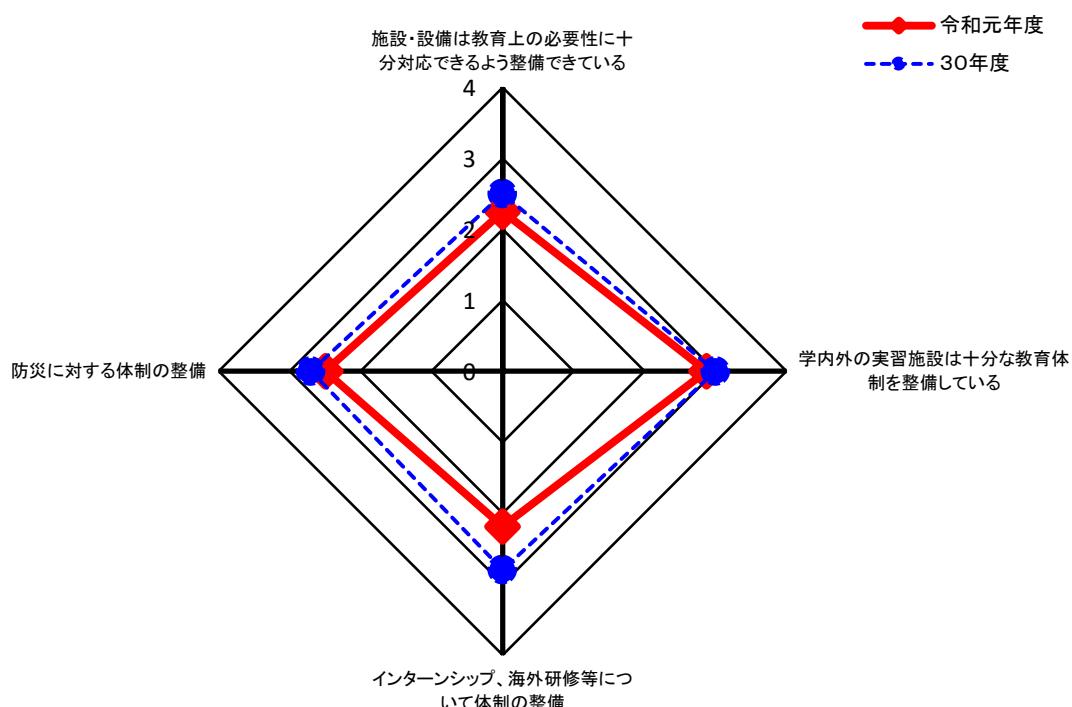
◎老朽化した校舎及び校内の施設・設備の修繕・整備が喫緊の課題となってはいるが、「古いけれど清掃が行き届き、整理整頓がなされている学校」「校舎を大切にする学生」に取り組むことはできるので、学生・教職員が心を一つに素敵な学校づくりに取り組んでいきたい。

◎インターンシップの態勢が整っていれば、授業があるのにそこに予定を入れる学生がいなくなると思います。就職支援の一環として、インターンシップの時間を設けても良いのかもしれませんね。

◎修繕を要する箇所が多数あり対応が求められる。

◎設備が古く、文科省が求めるITを使った授業が展開できない。少しづつでも機材の予算を調べ、数年計画で機材を購入する。

◎教室の床や壁等修繕が必要と思われる箇所が複数あります。



7 学生の受け入れ募集

	4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動は適正に行われている	職	4	2	0	0	3.7
	二	0	5	1	0	2.8
	介	2	2	0	0	3.5
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている	職	3	2	1	0	3.3
	二	0	5	1	0	2.8
	介	1	2	1	0	3.0
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている	職	4	2	0	0	3.7
	二	0	4	2	0	2.7
	介	1	2	1	0	3.0
学納金が妥当なものになっている	職	4	2	0	0	3.7
	二	0	6	0	0	3.0
	介	1	3	0	0	3.3

網掛けは前年度平均

- 全ての項目で前年度を下回り、総平均値は0.2ポイント下がっている。
- 全学あげての入学生を増やしていく取り組みの推進。
- 様々な場・機会を通じての学校の教育活動や魅力発信。
- 在校生が実感できる学びの質の高さ、学校の頑張り。

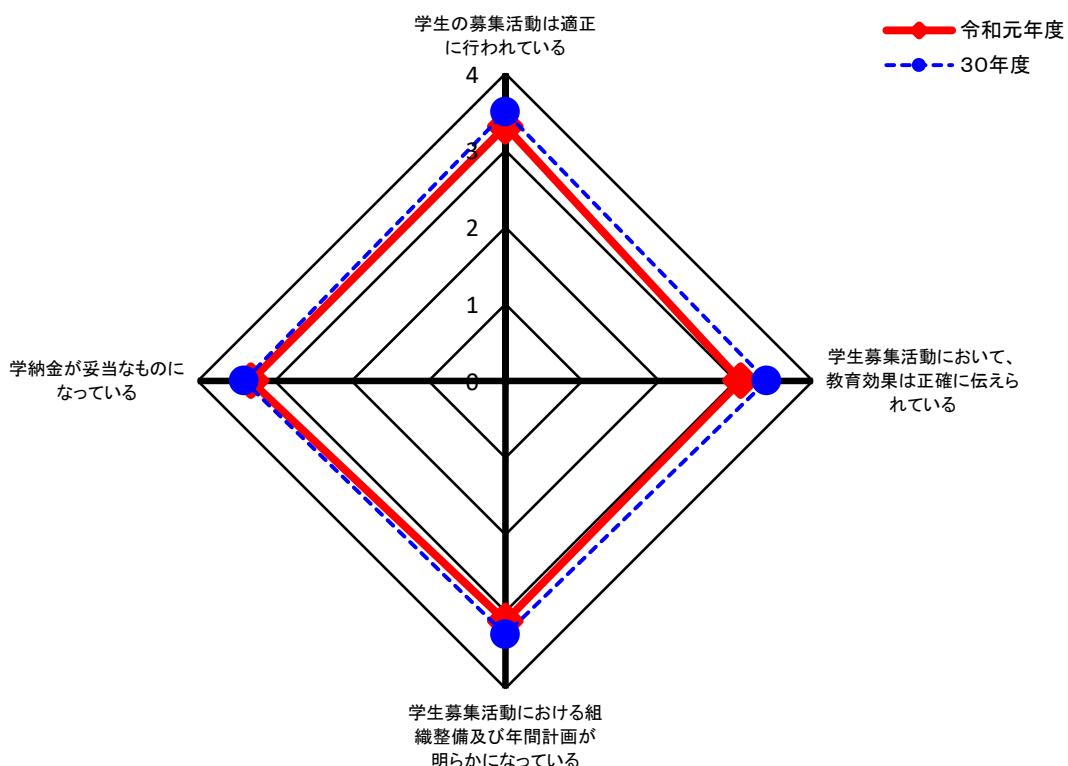
・評価によって表出した課題と改善策

◎ホームページ充実(教育活動・学生の頑張りの紹介)、高校訪問への取り組みなど、広報担当者の努力は高く評価できると思います。しかし、2018年問題等による入学生の減少は進んでおり、学校生き残りのための対応策が求められています。広報担当者だけに任すのではなく、教職員一人一人が改善策や自分にできることを考え、取り組んでいく学校にしたいものですね。

◎学生募集には苦労が伴うが更なる努力が必要である。

◎高卒入学生の比率が年3%の割合で減少している現実への打開策の検討。給付型奨学金対象校への道が学生募集に大きく関わってくる。

◎学生減が止まらず、学生募集活動がうまくいっていない。進学相談会を増やす、魅力あるHP作り、在校生・卒業生の協力依頼等を進める。創立50周年の事業を実施し、学校をPRする。



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している	職	0	4	2	0	2.7	2.4
	二	0	1	5	0	2.2	
	介	0	2	2	0	2.5	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	職	0	5	1	0	2.8	2.6
	二	0	1	5	0	2.2	
	介	0	3	1	0	2.8	
財政について会計監査が適正に行われている	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	二	1	3	2	0	2.8	
	介	0	4	0	0	3.0	
財務情報公開の整備はできている	職	2	4	0	0	3.3	3.0
	二	0	4	2	0	2.7	
	介	0	4	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○全ての項目で前年度を下回り、総平均値は0.2ポイント下がっている。

○学生増に向けての、全学あげての取り組みの推進。

・評価によって表出した課題と改善策

◎学生数が増えることが財政基盤の安定につながることから、前項「7 学生の受け入れ募集」に記載されて取り組みを充実していきたい。

◎学生減により学校の財政基盤は不安定と思われる。財政状況が厳しいと思われる所以、どのような予算計画で1年間学校を運営するのか説明を受け、予算を適正に執行する。

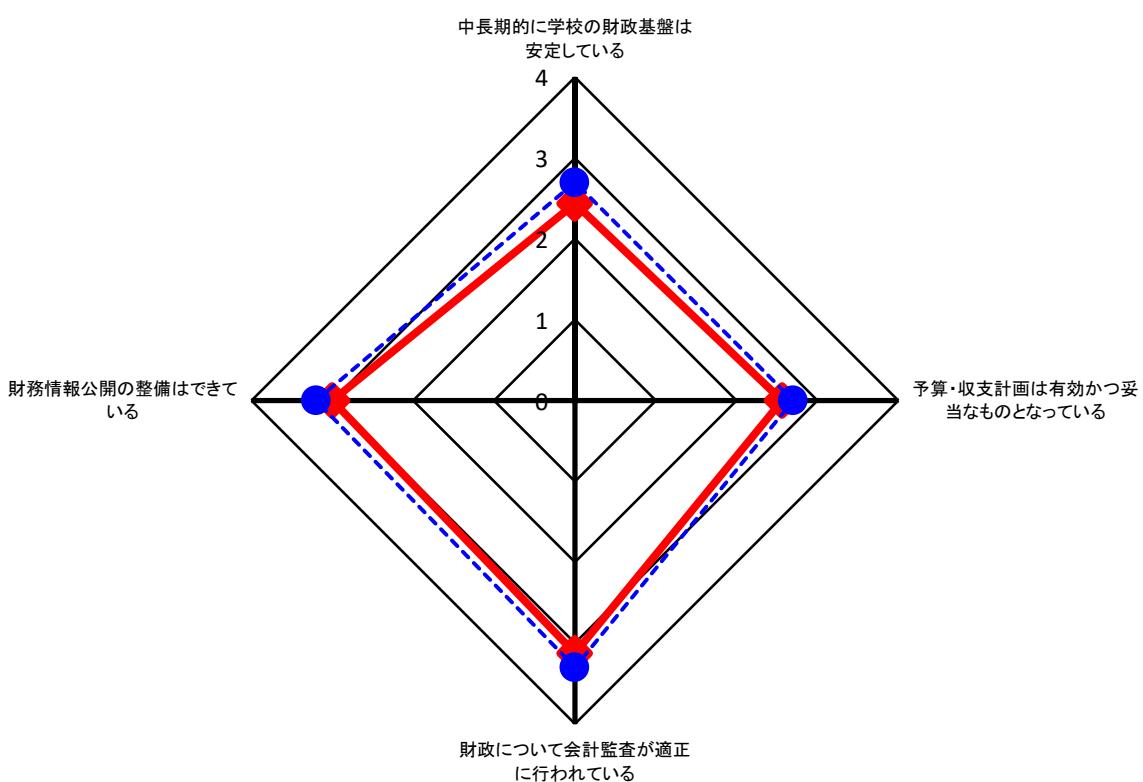
◎やや不適切というよりも、よくわからないというのが正しいか。

◎学生の確保が重要な課題だと思われる。

◎財務について、職員会議などで共有するべきだと思う。会計監査については、報告がないのでよくわからない。

◎学生数が年々減少しているので財政基盤が安定しているとは言えないと思います。

■ 令和元年度
■ 30年度



9 法令の遵守

	4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	職	3	3	0	0	3.3
	二	0	6	0	0	
	介	2	2	0	0	
個人情報に關し、その保護のための対策がとられている	職	3	2	1	0	3.3
	二	0	5	1	0	2.8
	介	1	3	0	0	3.3
自己評価の実施と問題点の改善を行っている	職	2	4	0	0	3.3
	二	0	5	1	0	2.8
	介	0	4	0	0	3.0
自己評価結果の公開	職	3	3	0	0	3.5
	二	2	4	0	0	3.3
	介	2	2	0	0	3.5

網掛けは前年度平均

○全項目で前年度を大きく下回り、総平均値が0.3ポイント下がっている。

○法令遵守と個人情報保護の一層の充実。

○自己評価結果を確かな学校改善につなげる取り組みの推進。

・評価によって表出した課題と改善策

◎法令遵守と個人情報保護については、学校として意識を持ち取り組んでいるところであるが、一層の充実を図っていきたい。

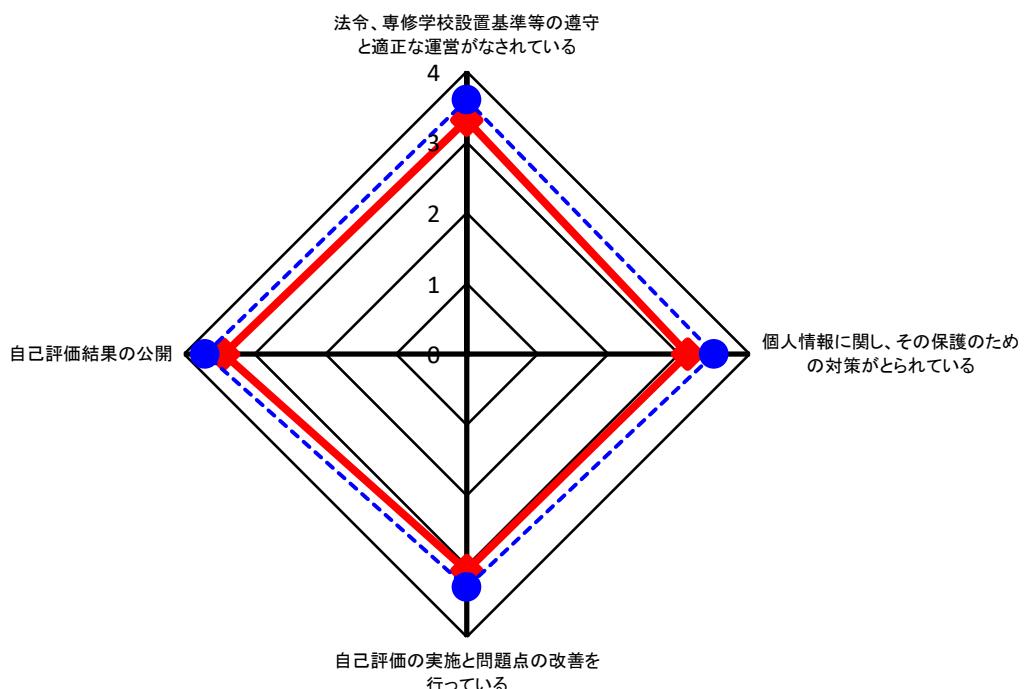
◎小規模校ながらしっかりと遵守されていると思う。

◎学生の個人情報について話す場合は、まわりの状況を、一人一人が気をつけて確認する必要があると思います。

◎少しずつ改善している項目もあるが、教員確保や設備等改善していない項目もある。何年計画で改善するなど見通しがあるとよいのでは。

◎個人情報の保護で、個人のパソコンを使用していることに不安を感じる。

■ 令和元年度
■ 30年度



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	職	3	3	0	0	3.5	3.4
	二	2	4	0	0	3.3	
	介	2	2	0	0	3.5	
学生ボランティア活動を奨励、支援している	職	5	1	0	0	3.8	3.4
	二	1	4	1	0	3.0	
	介	2	1	1	0	3.3	
地域に対する公開講座等を積極的に実施している	職	1	5	0	0	3.2	2.9
	二	0	5	1	0	2.8	
	介	0	3	1	0	2.8	
教育訓練の受託等を積極的に実施している	職	4	1	1	0	3.5	3.6
	二	4	2	0	0	3.7	
	介	2	2	0	0	3.5	

網掛けは前年度平均

○本校で重視している取り組みの一つであり、総平均値は3.3と、例年同様大項目の中で最も高い評価となつてはいるが、3つの項目で前年度を大きく下回り、総平均値が0.4ポイント近く下がっている。今後も継続・努力していきたい。

○大きく評価が下がった地域に対する公開講座等推進。

○自然再発見シリーズにおける学校の教育活動や学生の頑張り等の発信(紹介)。

・評価によって表出した課題と改善策

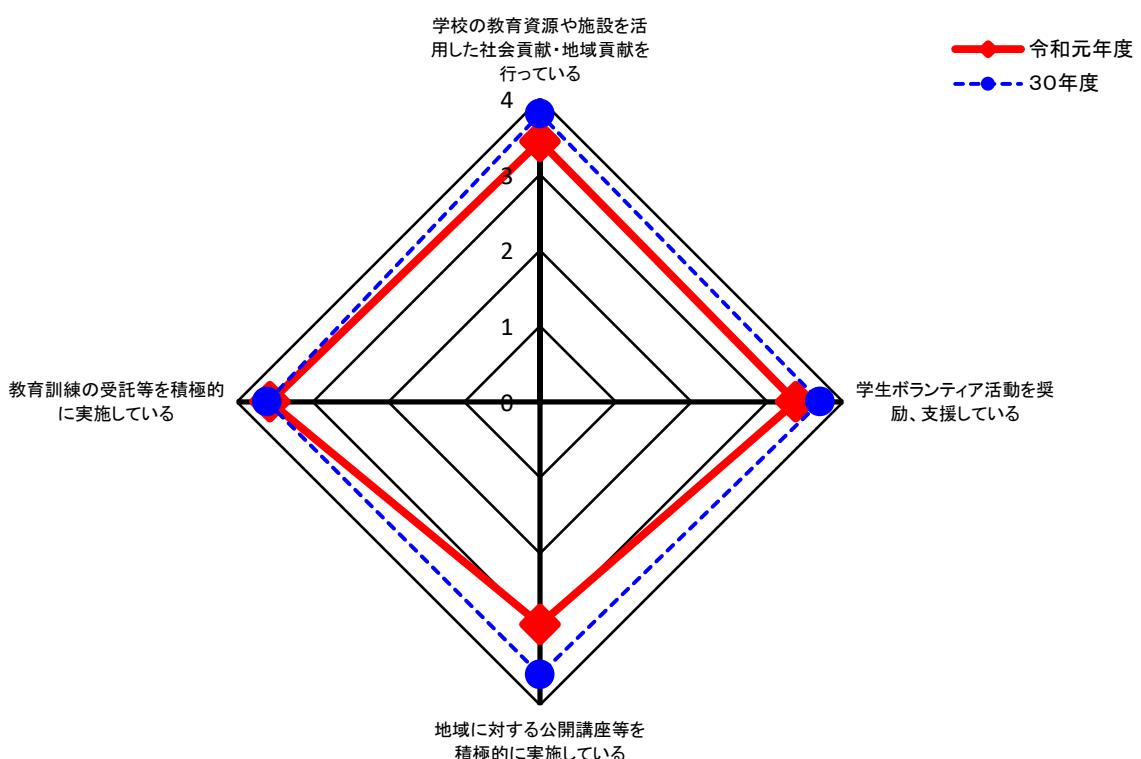
◎社会貢献・地域貢献については、学校として意識的に取り組んでいるところであり、今後も一層の充実を図っていきたい。

◎自然再発見シリーズなど公開講座等は定着しつつある。

◎以前より受託事業の数が減ってしまったように感じる。その原因を分析し、対応策を考えるとともに、広報についても取り組んでいきたい。

◎連携企業参加による公開授業は大変教育効果があると考えられる。その教育効果の記録・分析を紀要等で紹介をしていただけたら、子育てに悩む保護者への地域貢献にも繋がっていくと考える。(地域社会へ向けて学校の役割)学校施設開放も地域社会へ向けた大きな社会貢献と考える。

◎ボランティア活動を活性化し、うまく学業、学生支援にも活用されていく方法を考えていけたらよいのでは、と感じています。



・他の課題(全体的に)

◎特に学生募集の特効はないものか。行政との関わりの中で考えるべきものかな。

※自己評価結果について

○学校自己評価も回を重ね5回目の実施となりました。今年度の結果は大項目13のうち12が前年度の平均値を下回り、そのうち9の大項目が前年度比0.2ポイント以上減、また0.3ポイント以上の減は3という結果でした。

○今年度を振り返ってみたとき、「学校の取組が様々な面で後退し、そのため評価が下がった」という『後退』の実感は少ないことから、取り組みが大きな改善に至らなかったこと、そして教職員が回を重ねるごとに真剣かつ厳しい目で本校の教育活動を見つめ、より問題意識を持つ集団になり、学校自己評価が本来目指す姿になってきたのではと感じています。

○貴重な意見についての記述もたくさんありました。評価の数値、意見について教職員全員が真摯に受け止め、次年度はその改善策や方策について考え、実践していくことができればと思います。